

りそな経済フラッシュ

(中東情勢のリスクシナリオ)

 2024年 10月 30日
 りそなHD 市場企画部
 担当：苅谷 将吾

1 対立のこれまで

10月26日にイスラエルがイランの軍事施設を攻撃、足元ではイランの出方に焦点があたる。4月にも相互に攻撃の応酬があったが、イスラエルの攻撃後にイランは報復攻撃を実施せず、事態は一段のエスカレーションを免れた(表1)。そもそもの軍事力の差や米国の支援を受けるイスラエルとの全面戦争は避けたいとのイランの本音が透ける。

今回もイランが踏みとどまれば、中東情勢の悪化は一時的に留まると思われ、市場もそのように期待している。

表1：主な対立の経緯

2023 10月	・ハマスがイスラエル領土に侵入、約1,200人を殺害、数百人を人質に ・イスラエルがガザ地区に侵攻、紛争開始
2024 4/1	<u>シリアのイラン大使館が空爆される(イスラエルによる攻撃と思われる)</u>
4/14	<u>イランがイスラエルを攻撃(米英イスラエル等が撃墜、被害は限定的)</u>
4/19	<u>イスラエルがイランの軍事施設を攻撃</u>
4/20	<u>イランが報復攻撃をしない旨を示唆</u>
7/31	ハマスの指導者が暗殺される(イスラエルによる?)
9/28	イスラエルがレバノンへ空爆、ヒズボラの指導者が死亡
10/1	イスラエルがレバノンへ「限定的な」地上侵攻を開始
10/1	イランがイスラエルへ200発のミサイル攻撃
10/26	<u>イスラエルがイランの軍事施設へ報復攻撃</u>

2 イスラエルが直面する3つの戦線

イスラエル軍は主に3つの戦線への対応を迫られている。長期化するハマスとの戦線に加え、上述のイラン、レバノンから空爆を続けるシーア派組織であるヒズボラの3つの戦線である(表2)。レバノンに対しては、9月より「限定的な」地上侵攻を開始、戦火は拡大している状況。

3 リスクシナリオ

イランが予想外に“報復攻撃を実施”することや、イラン高官が4月に言及した“ホルムズ海峡の封鎖”、イスラエルの強硬姿勢を支持するトランプ氏が当選した場合に“イスラエルが核施設を攻撃する”などがリスクシナリオとして懸念される。(右表3)

現状の市場の見方がやや楽観的である分、リスクシナリオが発現した場合、各種資産のショック的な値動きは大きなものになると予想する。

表2：3つの戦線

ハマス
(ガザ)

ガザ地区での紛争継続。イスラエルはヒズボラへ軸足を移しつつある

イラン

2024年4月以降、互いに直接攻撃開始。イランはハマスやヒズボラを支援

ヒズボラ
(レバノン)

レバノンが拠点のシーア派組織。イスラエルはレバノンへの「限定的な」地上侵攻を開始

表3：意識されるシナリオ

ガザ地区での紛争の長期化
→局所的な紛争に留まるとの見方から、**市場の反応は限定的**

・イランの報復
・トランプ氏当選(強硬姿勢を支持)
→**イスラエルが核施設を攻撃**
→**リスク資産下落、円高・ドル高**
・ホルムズ海峡※の封鎖
→**原油価格が急騰、日欧中心にスタグフレーション懸念が広がる**

※世界の原油の約2割(日量2千万)バレルが通過する海峡

・イランを巻き込み全面戦争
・地上侵攻の長期化
・更なる戦火の拡大
→**リスク資産が下落、円高・ドル高**

出所:各種報道、Bloomberg

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項
 当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、**弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。**また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることがあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。**取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願いいたします。**